

— 南総地区の人口 —  
 人口 21,172人  
 男 10,704人  
 女 10,468人  
 世帯数 10,233世帯  
 令和4年5月1日現在

# ふれあい

## 地域で守ろう『福祉のまち、南総』

編集 南総地区社協  
 広報委員会  
 発行責任者 地区社協会長  
 兒井敏雄  
 事務局 南部エリア推進  
 センター内  
 電話 92-1481



みんなで懐メロを歌いました（なのはな館）  
 ハワイアン音楽に合わせてマスク越しに口ずさむだけでもなんだか心が温かくなります。

**会長あいさつ**  
 『地域共生社会を目指して』

令和4年度の事業開始にあたりましてごあいさつ申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は三年目になりましても終息はしておりません。市原市では、依然として二十代以下の感染者の割合が高くなっており、五月下旬時点で市内全感染者の半数以上となっております。感染拡大防止のため、引き続き、手洗いや消毒などの基本的な感染防止対策を続けましょう。

中には重篤な症状や回復後の後遺症に悩まされる事例も報告されており、注意を怠ることはできませんが、引きこもりすぎてしまいますと不健康になってしまいます。

私ども地区社協では感染状況に注意を払いつつ、各種事業を実施してまいります。今年度は平成三〇年度に策定いたしました『南総地区行動計画』の改定年度にあたり

私どもの地区では高齢者の方々の人口比率が高いことから福祉活動は高齢者への対応が多い傾向でした。これからの共生社会実現に向け、「高齢者・子ども・障がい者」という福祉施策の区分や「支え手」「受け手」という関係を超えて、皆さんが「我が事」として参画していくことが大事です。人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながる、そんな社会が実現できたら素晴らしいと思いませんか。全ての方々が互いに尊重され、いろいろな形で社会とつながり、生きる力と可能性を最大限に発揮できる地域となるよう活動を進めてまいります。

今年度もどうぞよろしくお願いたします。

（兒井 敏雄）

### 令和4年度事業計画及び予算 予算総額：3,955,641円

#### 支出の概要

サロン事業 1,097,500円

福祉バザー事業 130,000円

相談支援事業 35,000円

11月5日（土） 南総公民館  
 ※皆様のご協力をお願いいたします

毎週土曜日 13時～15時  
 なのはな館 相談室  
 ※電話でのご相談も受け付けています ☎070-5579-7629

地域福祉支援事業  
 511,000円

日常生活支援事業 90,000円

その他事業 440,000円

広報事業 130,000円

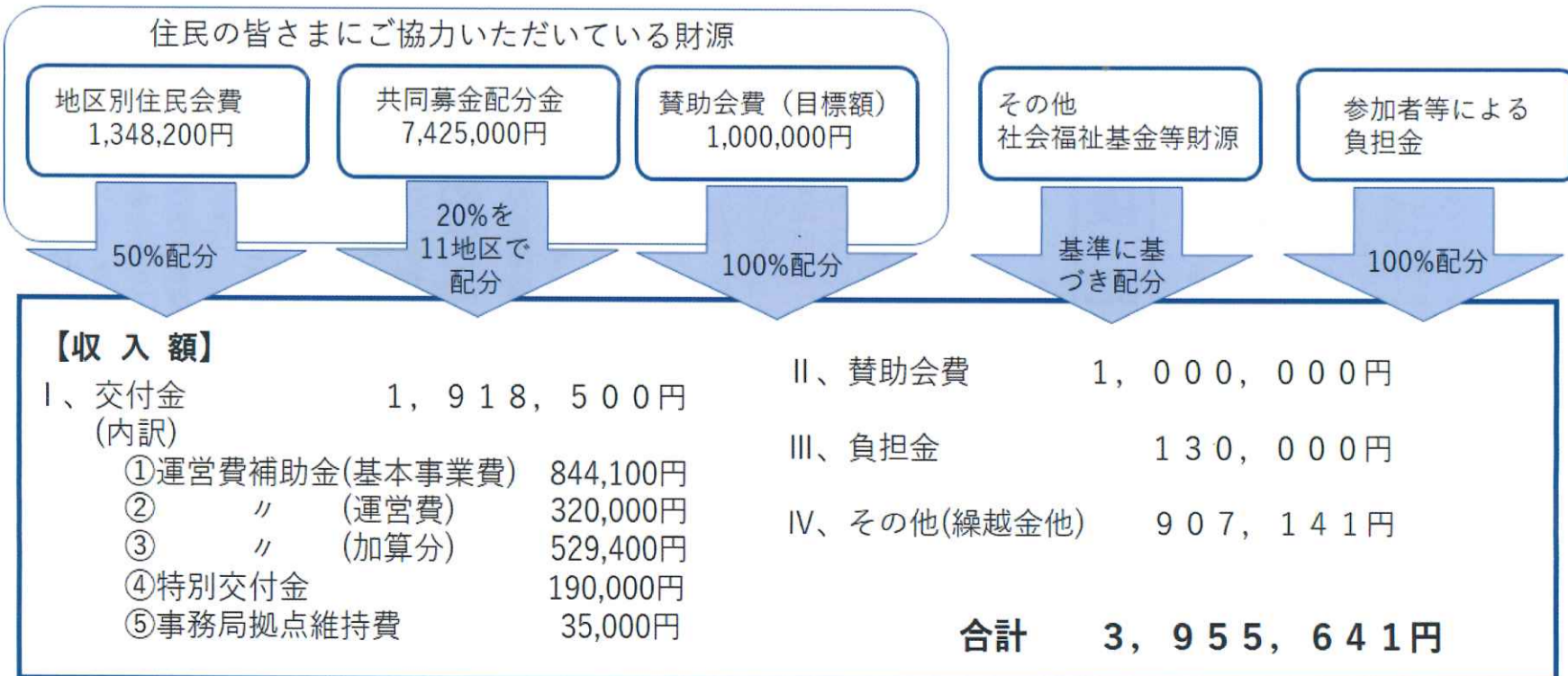
- 災害支援ボランティア事業（年2回）
- 小域福祉ネットワーク連絡会議（年2回）
- 高齢者支え合い事業（第2層協議体）
- 人材育成事業

広報紙「ふれあい」を  
 年2回発行（6月・12月）

事務費・管理費等  
 1,522,141円

事業名	開催日	場所
ふれあいきいきサロン（食事サービス）	毎月第3金曜日 （4月・8月は中止）	南総公民館
ふれあいきいきサロン（茶話会）	通年	各地区
ふれあい子育てサロン（のびのびキッズ）	4月29日、7月19日、 10月30日、11月22日、 12月13日、3月14日	南総公民館

#### 収入の概要





# トピックス

## 鶴舞地区

### 鶴舞バスターミナルの作品展示について

令和四年四月二十三日（土）の午前十時から午後四時迄、鶴舞バスターミナルで、「鶴舞踊りの会」と東京のボランティア団体「のろし」の皆様によって、展示品の補修と新規の作品展示が実施されました。



案山子の補修をする踊りの会の人達（鶴舞バスターミナル）

ターミナル運営協議会の方々によると、高速バスを利用する人達からユニークな案山子が好評であるとのこと。また、待合室の前面に「のろし」の方達と鶴舞小学校の児童が作製した竹に描かれた極彩色のアートが取付けられました。昨年の十一月から十二月にかけて、「のろし」の

メンバーと小学校一年生から六年生が協同で制作したもので、学年ごとに飾られており、きれいで楽しい展示となっています。

当日は千葉ケーブルテレビが撮影に来ていました。鶴舞バスターミナルは市原市の玄関口として、多くの観光客やゴルフアークが利用しているため、地元や東京のボランティアによる作品展示は、市原市の宣伝に貢献しています。

（編集委員）

## 牛久地区

### 「牛久仲よし健康クラブ」体と頭の体操で介護予防

牛久仲よし健康クラブは、令和元年十二月六日から活動を開始しました。

間もなく新型コロナウイルスが感染拡大したため、活動の休止や再開を繰り返した時期がありました。令和三年度は新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、一年間休止することなく五十回活動することができました。

活動の場所は、上総牛久駅近くの円明院の敷地内にある牛久仲町会館です。毎週金曜日の午後一時三十分から二時間程度、十数名（女性が多い）の参加を得て、童心にかえって童謡や唱歌を歌いながら行う市原市推奨の「筋金近トレ体操」や「ふまねつと運動」、脳トレなどをやっています。東京オリピック・パラリ

ンピック2020の正式種目「ボッチャ」も楽しんでいきます。ボッチャは高齢者や障がいのある人も楽しめるスポーツです。赤・青チームに分かれて選手になった気持ちで高度な技術を競っています。また、体を動かす運動だけでなくお口の体操もやっています。

早口ことばは、口腔機能（噛む力・飲み込む力）を向上させると言われています。皆さんもチャレンジしてみてください。

「東京都特許許可局 新春シャンソンショー 赤パジャマ・青パジャマ・黄（き）パジャマ ミヤンマーの老若（ろう）にや（く）男女（なん）によ（）」

（代表 加藤 功）



筋金近トレ体操をする皆様



転倒予防のための筋力を鍛えます

## 平三地区

### 西願寺の大修理から得た事



国指定重要文化財 西願寺阿弥陀堂附厨子（光堂）

平三地区は、国道二九七号線の市原市最南部に位置し、大多喜町へ続く山間の農山村地域です。この時季、初夏の新緑の柔らかな色が沿道の野山に広がる、人口千人に満たない地区です。小学校は二〇一六年に閉校し、川の流れる流域を徐々に浸食している様に、身近な公共施設は郵便局のみになりました。暮らした方の急激な流れが地域社会を一気に浸食してしまい、災害の強さには多少はありますが自然も、そこに暮らす人の生活も変わり続けています。

このような中で将来に期待が持てるような出来事が平三地区にありました。それは檀家数百十戸ほどの西願寺（国道二九七号線、阿弥陀畑地区）で四年間かけて創ってきた事業で、二百七十年前の江戸時代に建てられたお寺の大修理事業です。住職とお会いできるのは、葬儀や法事はもとより盆の棚行や、檀家として新年とお盆のご挨拶の折りで。普段近くを通る際には『光お堂の建物はいつ見てもご立派だ』と思いました。し



新装された本堂（落慶式奉告法要会場）

かし、会合でお寺に向く機会が多い護国寺役員によると、年々本堂の傷みや不具合が外から見えてくるようになってきた。先に送れなくなってきたのだそうです。そのような中で境内の巨木となった木立が大型台風の影響で倒木の恐れが増しました。檀家の中に伐採などができる方がおりましたので話が一気に展開し、大規模な伐採で見違えるようになり、今更なりました。すると、今まで木立の合間にあり、全貌がはつきりと見えていなかったお寺が現れたのです。本堂をどうするか、建て替えか、大修理か、いよいよ決めねばならない時となり、役員会は、多方面から専門家に診断をしていただき今後二百年は持つ工法で、ほぼ現在の骨組みは温存して大修理をする、という事が何度もの会議や説明会の実施を経て、檀家の総意で決定されました。そして、令和四年五月五日に落慶法要が営まれたのです。

振り返ると、コロナという恐ろしいウイルスは、この事業に差し障りとなりましたが檀家、住職の強い決断が力になりました。

法要が終わわり、参事を辞退していただきました檀家も翌七日、八日と本堂を見学し、

住職に経をあげていただきました。各家々の位牌と阿弥陀様の前でこのお寺の全てが、檀家はもとよりみなのために生かしましょうと誓い合った次第です。今回の事業を通じて皆様と一緒に出した力は本当に大きいと思いました。

（実行委員長 金高 元郎）

## なのはな館情報

### 公式LINE始めました

総務省の通信利用動向調査によると、今や携帯電話やスマートフォンなど、モバイル端末の世帯保有率は国民の九割を超えているとのこと。誰もが気軽に情報を入手できる時代となっており、情報が届くようになります。

なのはな館でもイベントのお知らせや休館（休室）など、情報をいち早くお知らせするため、これまでもホームページやFacebook、Twitterなどを活用してきま

## 編集後記

令和四年度も相も変わらずコロナ関連情報で明けました。「ふれあい」愛読者の皆様には日々目標をもって生活しておられるでしょうか。四十数年前にもなるうかと思いますが、ある有名タレントが「身体にいいこと何かやってみよう」というフレーズで健康促進のコマーシャルをやっていました。

一般的に万人は皆年老いて目的地に辿り着きます。よく「第二の人生」という言葉を耳にしますが、人生には第一も第二もないと思います。個人によって色々な（多くの）節目はあるものの一生を貫くものがそれぞれの人だと思えます。アメリカの詩人であった故サ



なのはな館 92-1481



- 編集委員
- 河津 敏郎（内田）
  - 伊藤 陽子（寺谷）
  - 加藤 功（牛久）
  - 大井 守（鶴舞）
  - 金高 義幸（平三）
  - 牧野 雅夫（戸田）